



Weekly Report 2024-2025



創立 1969年4月14日
承認 1969年4月23日
チャーターナイト 1969年11月9日
発行 IT・広報委員会

会長：江島繁夫 / 幹事：岩本達也 / 副会長：島谷隆 / 会長エレクト：鈴木雅博 / 副幹事：堀井実 / S.A.A: 中井博

今週のプログラム	第2625回	2月21日
客話「高松市のまちづくりについて」高松市副市長 中林大典様		
担当者	プログラム委員会	例会場 JRホテルクレメント高松

先週のプログラム	第2624回	2月7日
新入会員歓迎会		
担当者	プログラム委員会	例会場 JRホテルクレメント高松



江島会長挨拶

皆さんこんばんは
坂出ロータリークラブよりIM実行委員長宮本さまがお越しになっております
よろしくお願ひいたします
また今日は新入会員さんの歓迎会です
同好会の皆さんよろしくお願ひします
さて今日2月7日は福井県ふるさとの日だそうです
1881年2月7日に石川県から越前を滋賀県から若狭をそれぞれ分離した後に合併され現在の福井県が設置されたことにちなんでいます
ちなみに香川県ですが
1873年に名東県に編入
1875年香川県として分離
1876年愛媛県に編入
1888年12月3日に香川県が復活して47都道府県が確立したそうです
一番最後が香川県だったようです
今日もよろしくお願ひします

岩本幹事報告

- 配付 ・IMの案内リーフレット
・ガバナーマンズリーター
・小規模公益法人500ガイドブック献本
- 案内 ・2670地区大会便りと仮登録の案内
・ロータリー少年少女キャンプのお知らせ
・高松市長より車止め寄付の受入れ決定の連絡
・2025-26ロータリー手帳購入の件

ビジター

IM実行委員長 坂出RC 宮本 貴光 様

IT・広報委員会よりお願ひ

週報に掲載させていただき記事・原稿を募集させて頂きたく会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。
題目は自由として、できるだけ多くの皆様に近況報告も含め各業界分野の話、身近な随筆、提言等どんなお話でも結構ですので投稿していただきます様、宜しくお願ひ申し上げます。

2月21日 今日は何の日	今日生まれの有名人
漱石の日/国際母語デー 1897年 讃岐鉄道が、高松駅～丸亀駅間で開業 1898年 シングルCDが日本国内で初めて販売	1993年 菅田将暉 1978年 酒井美紀 1984年 香里奈 1967年 伊藤つかさ 1981年 要潤 1947年 井上順
誕生花 「ワスレナグサ」花言葉は“私を忘れないで・真実の愛”	
誕生石 「ガーネット」宝石言葉は“真実・友愛・忠実・繁栄”	

手に手つないで
手に手つないで つくる友の輪
輪に輪つないで つくる友垣
手に手 輪に輪
ひろがれ まわれ 一つ心に
おおロータリアン おおロータリアン



ニコニコBOX

IMお願いします。 宮本貴光様
 新入会員のみなさん今後もよろしくお願ひします。 江島
 妻に誕生日祝いをいただきました。
 ありがとうございます。
 小竹社長、香川県ゴルフ協会の会長就任おめでとうございます。 村上
 江島会長、いつもすみません。 田中
 遅刻 1件

合計 5 件

本日の合計 22,000 円

2024-2025 年度累計 611,500 円

出席報告 出席委員長：川口英樹

会員数 /	42 名	出席規準数 /	38 名
出席者数 /	21 名	欠席者数 /	17 名
出席率 /	55.26%	ビジター /	1 名
最終出席率 /	1 月 24 日	55.26% →	68.42%

2025-2026 年度 RI 会長

デ・カマルゴ
 国際ロータリー(RI) 会長エレクト

よいことのために手を取りあおう

デ・カマルゴ会長エレクトが「よいことのために手を取りあおう」という次年度の会長メッセージを発表しました。「ロータリー会員は行動人です。私たちは変化が起こるのを待つのではなく、自ら変化を起こします。…私たちは、よいことのために手を取りあいます」



RI 次期会長がロータリー会員の力について語る

国際ロータリーのマリオ・セザール・マルティンス・デ・カマルゴ会長エレクトは、2月10日、米国フロリダ州オーランドで開かれたロータリー国際協議会で、「地球上で最も有能なボランティアのチーム」を拡大する計画の概要を示し、成長、奉仕、つながりを大切にして「よいことのために手を取りあおう」と会員に呼びかけました。「ロータリーの最大の財産は、その歴史でも、プロジェクトでも、比類のない世界的広がりでもありません。それは会員です」。こう述べたデ・カマルゴ氏は、ロータリーのパートナー団体がロータリー会員の「並外れた献身」を称賛したことに触れ、次のように続けました。「外部団体からそう認められたことで、ロータリーが世界に与えることのできる最大の贈り物は、その会員であるという私の理解が深まりました」

サンパウロ(ブラジル)のサントアンドレ・ロータリークラブに所属するデ・カマルゴ氏は、新たな視点を模索し、世界の地域社会でのロータリーの奉仕を強化することの重要性を強調しました。その世上で、成長のための「不可欠な3つの柱」として、革新、継続性、パートナーシップを挙げました。

革新しながらも一貫した伝統を築く

世界がいかに急速に変化しているかを指摘したデ・カマルゴ氏は、革新を呼びかけました。

「テクノロジー、社会の期待、経済状況は常に変化しており、ロータリーもそれに合わせて進化しなければなりません。……革新こそが、変化するこの世界に私たちが適応する手段なのです」

これを実現する重要な方法の一つは、さまざまなクラブモデルを採用し、推進することだと、デ・カマルゴ氏は言います。衛星クラブ、分野特化別クラブ、法人クラブ、パスポートクラブなど、さまざまな方法でロータリーを体験することができます。自身の妻が 50 人近くの会員を擁する衛星クラブの設立に助力したことに触れ、「将来のロータリー会員はどこにでもいます。私たちは、そこに赴いて彼らを見つける必要があります」と語りました。

また、リーダーシップの継続性の重要性を強調しました。過去18か月間に多くの場所を視察してその必要性を目の当たりにしたデ・カマルゴ氏は、ガバナーが前任者の取り組みを土台とし、プログラムや戦略を中断することなく継続させることが地区の発展につながると話しました。

ナイジェリアでの井戸建設、大洪水の被災者を支援するパキスタンでの取り組み、子どもたちの命を救う医療を提供するインドでのロータリー補助金プログラムを挙げたデ・カマルゴ氏は、次のように述べました。「継続性とは、画一性ではなく、連携です。地区リーダー同士の連携し、自分の”ガバナー年度”を越えてロータリーを思い描けば、長期的な成功の土台が築かれます」

パートナーシップの力

デ・カマルゴ氏は、ロータリー会員は単独でも大きな成果をあげられるが、仲間と協力すれば世界を変えることさえ可能だと述べました。その上で、ポリオ根絶に向けたロータリーの歴史的な取り組みは、ドイツ財団、世界保健機関、UNICEF(国連児童基金)などのパートナーと連携して行われてきたことを指摘。これらのパートナー団体がなかったら、ロータリーが同様のインパクトをもたらすことはできなかったらう、と述べました。さらに、入会への関心を高め、クラブを活性化させるために、さまざまな形でのパートナーシップを模索するよう提案しました。

事業者団体、専門職団体、学術機関などと協力することで、ロータリーは職業や考え方の多様性を取り入れながら新会員を増やすことができる、とデ・カマルゴ氏。「奉仕と参画というロータリーの価値観を共有する職業人に働きかけることで、世界でよいことをするロータリーの力を拡大できます」

ロータリーのすべての功績と成長は、究極的に会員にかかっている、と述べたデ・カマルゴ氏は、会員の入会促進と維持に力を入れることで、今後も長年にわたって地域社会に変化を生み出すロータリーの強さと力が高まると語りました。

「分断されがちな世界において、ロータリーは団結と希望の光となります。私たちのプロジェクトは、人種、ジェンダー、性別、思想、経済的背景の異なる人びとを結びつけ、世界でよいことをするという共通の目的で私たちを一つにします。……よいことのために手を取りあえるロータリーを築き、すべての人にとってより明るい未来を実現させましょう」

facebook

facebook でたくさんの写真を公開していますのでぜひご覧ください。



<http://www.facebook.com/TakamatsuWestRC>

次週のプログラム

第 2626 回

3 月 7 日

調整中

担当者 プログラム委員会

例会場 J R ホテルクレメント高松